

# 資料1

## 平成26年度 第一回森林環境保全基金運営委員会

～平成25年度森林環境税活用事業評価シート～

日時:平成26年5月26日(月)13:30～15:30

場所:高知共済会館「藤」

高知県林業環境政策課

# 目次

1. 公益林保全整備事業（木材増産推進課）・・・・・・・・1
2. みどりの環境整備支援事業（木材増産推進課）・・・・・・・・3
3. 集落ぐるみ捕獲推進事業経費（鳥獣対策課）・・・・・・・・5
4. 希少野生植物食害対策事業（環境共生課）・・・・・・・・7
5. 環境学習推進事業（生涯学習課）・・・・・・・・9
6. 森林環境保全事業（高等学校課）・・・・・・・・11
7. 山の学習支援事業（林業環境政策課）・・・・・・・・15
8. 森づくりへの理解と参加を促す広報事業（林業環境政策課）・・・・・・・・17
9. こうち山の日推進事業（林業環境政策課）・・・・・・・・21
10. 森林保全ボランティア活動推進事業（林業環境政策課）・・・・・・・・25
11. 運営委員会等開催費（林業環境政策課）・・・・・・・・27
12. 木の香るまちづくり推進事業（木材利用推進課）・・・・・・・・29

# 平成25年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	吉門 正広
内線	3146

1

① 事業名	・細目事業名：緊急間伐総合支援事業 ・細々目事業名：緊急間伐総合支援事業 ・当該事業名：公益林保全整備事業
大区分	森林環境の保全を進める事業
小区分	森林整備

事業費の推移		H21(決算額)	H22(決算額)	H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)
総事業費(千円)					142,426	98,025
② 財源内訳	森林環境税				142,426	98,025
	一般財源					
	その他					

③ 主な業務内容	Ⅲ～Ⅸ齢級の保育間伐による森林整備 当該事業にかかる補助金交付申請、交付決定、検査、確定及び執行管理等の事務 関係機関へのPR
----------	---

**事業内容(手段)**

- 交付対象の森林  
Ⅲ～Ⅸ齢級の保育間伐による森林整備
- 交付の条件  
保安林又は市町村森林整備計画に規定する公益的機能別施業森林において集約化が図れず、国庫補助事業の対象とならない森林  
上記の要件を満たしたものについては、森林所有者の負担を軽減することにより、森林整備の推進を図る。  
また、間伐の推進について、市町村広報誌への掲載依頼や林業関係機関誌等へ掲載するとともに、森林環境税のPRを図るため、さんSUN高知への掲載や関係機関等に対してチラシ、パンフレットを配布する。

【平成25年度実績】 実施面積 1,225ha

**【補助の流れ】**

```

    graph TD
      A[高知県] -- 補助 --> B[市町村]
      B -- 補助 --> C[森林組合等事業体、森林所有者]
    
```

④ 現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成24年度
<p>森林の多面的な機能を持続的に発揮させるため、未整備森林等における間伐を積極的に実施するとともに、森林所有者の負担を軽減を図るよう取組んでいる。</p> <p>しかし、平成21年12月に国が「森林・林業再生プラン」を策定し、10年後の木材自給率50%以上を目指すこととされた。このため、造林事業は、平成23年度の制度改革に伴い、間伐の採択要件として施業の集約化及び間伐した材を1ha当たり10m<sup>3</sup>以上搬出することが必須条件となった。</p> <p>また、森林整備加速化・林業再生事業については、平成23年度補正予算(第3次)において、東日本大震災の復興に必要な木材を安定供給する体制を構築する目的で、平成26年度まで期間の延長が決定されたが、当該事業の目的が造林事業とほぼ同様の条件となり、国庫補助事業の全てが、搬出間伐にシフトした内容となった。</p>		

⑤ 目的とねらい	<p>(本事業の目的) 水源かん養機能等の公益的機能が低い人工林の保育間伐を推進することで、荒廃森林の発生を防止し、森林の持つ公益的機能が効果的に発揮されるよう森林の整備を図る。</p> <p>(意図すべき成果) 森林吸収減効果の高い森林の整備及び荒廃森林への移行を防止し、将来にわたり健全な森づくりを推進する。</p>
----------	--

⑥ 対象(誰、何を対象とするのか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 森林所有者</li> <li>● 保安林又は市町村森林整備計画に規定する公益的機能別施業森林であり、かつ、集約化が図れず国庫補助事業の対象とならない、Ⅲ～Ⅸの人工林の切捨間伐</li> </ul>
-------------------	---

# 平成25年度 森林環境税活用事業評価シート② (当初・中間・実績)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	吉門 正広
内線	3146

1

指標の種類	指標名/算定式	H25目標値	H25中間値	H25実績値
⑧ Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	事業実施対象件数	833	589	840
	算定式			
	算定式			
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	森林整備面積 (ha)	1,250	884	1,225
	算定式			
	算定式			
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	1ha当たり事業コスト (間伐)	80,000	80,000	80,000
	算定式 事業費÷事業実施面積 円			
	算定式			

評価の項目	評価の結果	説明
Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
⑨ Ⅱ 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	成果(目標)に対しては、98%の実績である。 国の間伐に対する補助制度が撤出間伐ヘシフトされたことや、間伐事業の推進について市町村広報誌やへ県HPの掲載を通じ、森林所有者への周知徹底が図られるなど成果を得られた。
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	ヘクタール当たりの事業コストは変わっておらず、適正に単価設定をしており、効率性も概ね適正といえる。

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	国の間伐事業に対する補助制度が撤出間伐にシフトされ、平成25年度から一定の条件付きではあるが保育間伐が認められることとなったが、依然として森林所有者の方々が補助事業を活用するにはハードルが高く、当該事業に対するニーズが高まり、当初の目標に対して98%という高い割合で保育間伐を実施することができた。 今後もこれまで以上に間伐の推進を図っていくとともに、国への提言や情報収集を行いつつ、森林の持つ公益的機能が効果的に発揮されるよう森林の整備を図っていく。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	



# 平成25年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	中澤 知美
内線	4602

2

①	事業名	・細目事業名：みどりの環境整備支援事業 ・細々目事業名：みどりの環境整備支援事業 ・当該事業名：みどりの環境整備支援事業
	大区分	森林環境の保全を進める事業
	小区分	森林整備

③	主な業務内容	若齢林（Ⅲ～Ⅶ齢級）の除伐等による森林整備 造林事業の採択を受けた事業にかかる交付金交付申請、交付決定、検査、確定及び執行管理等の事務
---	--------	--

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成19年度
	森林吸収源対策に向けて、除間伐を実施するとともに、森林所有者の負担を軽減することで持続可能な森林づくりに取り組んでいる。しかし、平成21年12月に国が「森林・林業再生プラン」を策定して、10年後の木材自給率50%以上を目指すこととされた。このため、造林事業は、補助採択要件に施業の集約化と間伐した材を一定量搬出することが付され、従来、採択してきた保育間伐については、一部補助対象外となる森林が出てきたことなどにより、当事業が活用され難い状況となってきた。 しかし、当該事業については、平成19年度から事業を開始し、PR活動も実施してきたことから、森林所有者からの要望も強い。		

⑤	目的とねらい	(本事業の目的) CO2吸収効果の高い人工林の間伐を促進することで、荒廃森林の発生を防止し、森林の持つ公益的機能が効果的に発揮されるよう森林の整備を図る。  (意図すべき成果) 森林吸収減効果の高い若齢林の整備及び荒廃森林への移行を防止し、将来にわたり健全な森づくりを推進する。
	対象（誰、何を対象とするのか）	●森林所有者 ●造林事業、若齢林（Ⅲ～Ⅶ齢級）の除間伐

⑥	対象（誰、何を対象とするのか）	●森林所有者 ●造林事業、若齢林（Ⅲ～Ⅶ齢級）の除間伐
---	-----------------	--------------------------------

②	事業費の推移		H21(決算額)	H22(決算額)	H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)
	総事業費(千円)		56,414	61,207	19,297	26,357	8,534
	財源内訳	森林環境税	56,414	61,207	19,297	26,357	8,534
		一般財源					
その他							

⑦

**事業内容（手段）**

- 交付対象の森林 若齢林（Ⅲ～Ⅶ齢級）の除間伐による森林整備
- 交付の条件 造林事業の採択を受けた事業

上記の要件を満たしたものについては、各事業と併用して補助し、森林所有者の負担を軽減することにより、森林整備の推進を図る。  
 また、森林環境税のPRを図るために、申請者に対してチラシ、パンフレットを配布する。

【平成25年度実績】 実施面積 199ha

**【補助の流れ】**

```

    graph TD
      A[高知県] -- 補助 --> B[森林組合等事業体、森林所有者]
    
```

平成25年度 森林環境税活用事業評価シート② (当初・中間・実績)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	中澤 知美
内線	4602

2

指標の種類	指標名/算定式	H25目標値	H25中間値	H25実績値
⑧ Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	事業実施対象件数	120	98	109
	算定式			
	算定式			
	算定式			
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	森林整備面積 (ha)	180	147	199
	算定式			
	算定式			
	算定式			
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	1 ha当たり事業コスト (除伐A)	54,000	54,000	54,000
	算定式 事業費÷事業実施面積 円			
	1 ha当たり事業コスト (除伐B)	35,000	35,000	35,000
	算定式 事業費÷事業実施面積 円			

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
Ⅱ 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	成果(目標)に対しては、予算ベースで99%の実績である。実施面積は除伐Aが減少し、除伐Bが増加したため、目標を実績が上回った結果となっている。目標としていた事業量に達しており、成果が得られている。
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	ヘクタール当たりの事業コストは変わっておらず、適正に単価設定をしており、効率性も概ね適正といえる。

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	<p>当事業は造林事業への高上げ事業で、造林事業と合わせて約90%の補助率となっており、ほぼ9割の方々が生活用している。また、木材販売収入が得られない保育時期の費用負担を支えている。</p> <p>さらに、当事業は平成19年度から事業を実施しPR活動を行ってきたことから、森林所有者からの継続要望も強い。</p> <p>今後も森林所有者の保育作業に要する費用を軽減するなど、経営意欲を下げさせないためにも、当事業を継続して実施して行くとともにCO2吸収源効果の高い人工林を間伐することで荒廃森林の発生を防止し、森林の持つ公益的機能が効果的に発揮できるよう森林の整備を図る。</p>

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

# 平成25年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	鳥獣対策課
担当者	宮崎 信一
内線	2269

3

①	事業名	・細目事業名：鳥獣被害緊急対策事業費 ・細々目事業名：シカ被害特別対策事業費 ・当該事業名：集落ぐるみ捕獲推進事業
	大区分	森林環境の保全を進める事業
	小区分	シカ被害対策

③	主な業務内容	広範囲に県内の山林に生息するシカを、集落全体で捕獲するために、被害を受けている集落にくくりわなを配付する。
---	--------	---

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成25年度
	シカの個体数増や生息域が広がり、特に県の東部と西部で食害による農林業被害や自然植生被害が深刻化している。このため、シカ個体数を調整することが必要である。		

⑤	目的とねらい（成果）	(本事業の目的) 広範囲に県内の山林に生息するシカを捕獲するため、被害を受けている集落にくくりわなを配付し、そのくくりわなを使って集落全体でシカ捕獲に取り組むことを支援する。
	(意図すべき効果) シカの個体数を抑制することで、農林業被害や自然植生被害を軽減させる。	

⑥	対象（誰、何を対象とするのか）	集落
---	-----------------	----

事業費の推移		H21 (決算額)	H22 (決算額)	H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)	
②	総事業費 (千円)					24,980	
	財源内訳	森林環境税				24,980	
		一般財源					
		その他					

事業内容（手段）	
市町村を通じて、中山間地域の被害を受けている1,697集落（予定）にくくりわなを配付する。	
経過	
①5月中旬	くくりわな試作品の募集（8社より計13製品の提案）
②5月22日	「第1回集落ぐるみ捕獲推進事業くくりわな選定委員会」開催（3製品に絞り込み）
③5月下旬	試作品3製品の試作
④6月	試作品のフィールド試験を実施
⑤7月9日	「第2回集落ぐるみ捕獲推進事業くくりわな選定委員会」開催（1製品を選定）
⑥8月1日	「高知県新事業分野開拓者認定制度」に申請
⑦8～10月	くくりわなの試験設置
⑧8月27日	実用新案登録に申請
⑨9月5日	「高知県新事業分野開拓者認定制度」審査会
⑩9月25日	「高知県新事業分野開拓者認定制度」において新事業分野開拓者として認定
⑪10月2日	「物品購入契約」
⑫10月16日	実用新案登録
⑬10月～	「くくりわな配付」（5回に分割納品：最終11月30日納品）
⑭10月～12月	くくりわなの配付とセットでわな名人による捕獲技術講習会を実施
○平成25年度配付数：5,000個（24市町村） 配付集落：高知市、南国市、土佐市、宿毛市、土佐清水市、四万十市、香南市、香美市、奈半利町、北川村、馬路村、芸西村、本山町、大豊町、土佐町、大川村、いの町、中土佐町、越知町、梶原町、津野町、四万十町、大月町、黒潮町	

# 平成25年度 森林環境税活用事業評価シート② (当初・中間 **実績**)

担当課・係名	鳥獣対策課
担当者	宮崎 信一
内線	2269

3

指標の種類	指標名/算定式	H25目標値	H25中間値	H25実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	平成23年度農林被害額(千円)	124,087	124,087	
	算定式			
	算定式			
	算定式			
II 成果指標 (アウトカム)	平成25年度目標農林被害額(千円)	99,270	平成26年度に集計	
	算定式			
	算定式			
	算定式			
III 効率指標 (事業コスト)	被害額減少率	80%	平成26年度に算出	
	算定式 成果指標÷活動指標			
	算定式			
	算定式			

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	シカ個体数の増加により農林被害が深刻化しているため、里山において集落ぐるみでシカの個体数を減少させる事により農作物被害の軽減を図る必要がある。
⑨ II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	集計中
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	集計中

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	成果指標や効率指標となる平成25年度の被害額等について集計中

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

# 平成25年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

4

担当課・係名	環境共生課
担当者	久保
内線	3214

①	事業名	・細目事業名：希少動植物保護対策事業 ・細々目事業名：希少野生動植物保護対策事業 ・当該事業名：希少野生植物食害対策事業
	大区分	森林環境の保全を進める事業
	小区分	シカ被害対策

事業費の推移		H21(決算額)	H22(決算額)	H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)
②	総事業費(千円)	2,964	2,559	6,253	8,981	11,311
財源内訳	森林環境税	2,964	2,559	6,253	8,981	11,311
	一般財源					
	その他					

③	主な業務内容	①希少野生植物の食害状況調査、保護柵設置候補地選定、保護柵設置計画作成 ②保護柵設置、保護柵の補修 ③保護柵設置後のモニタリング調査
---	--------	--

⑦	事業内容(手段)	<p>(1) 調査・検討・対策計画 野生植物に関する専門的知識を持つ者による調査・検討及びその結果、専門的知見により防鹿柵(保護ネット)設置計画を立てる。 防鹿柵設置時においては現地で作業指示を行う。</p> <p>(2) 対策の実施(防鹿柵設置) 防鹿柵(保護ネット)設置計画に基づき、野生植物の専門知識を持つ者の指示のもと、防鹿柵設置作業を行なう。 防鹿柵(保護ネット)の設置にあたっては、急斜面等への設置等素人による作業が困難な事態も予測されるため、管轄の森林組合に資材の調達・設置作業を委託する。</p> <p>(3) モニタリングの実施 昨年度までに設置した保護ネットの効果把握するため、生育範囲拡大などの回復状況確認のモニタリングや現地ヒアリングを行い、植物個体群や防護柵の破損状況を把握のうえ適切な処置を行う。</p>
---	----------	--

現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成20年度
		平成20年度より特にニホンジカによる希少野生植物の食害が深刻化し、このまま食害が進むと近い将来希少野生植物が絶滅する可能性の高い山域の被害実態調査を実施し、その状況に応じて緊急性の高い場所に防鹿柵(保護ネット)の設置を行うなど、希少野生植物の保護を図っている。
	○平成20年度	【調査】 県東部の三嶺・石立山周辺 【柵設置】 石立山(175.5m)
	○平成21年度	【調査】 県西部の四万十川流域 【柵設置】 三嶺(3箇所:140.6m)、石立山(1箇所:48.7m)、三原村今ノ山(2箇所:95.6m)
	○平成22年度	【調査】 県中部の本山町白髪山周辺 【柵設置】 三嶺(1箇所:120m)
	○平成23年度	【調査】 工石山、桑の川、石立山、三嶺、中土佐町、堂ヶ森、中津明神 【柵設置】 三嶺(2箇所:100m) 桑の川(2箇所:100m) 中津明神(2箇所:200m)、大野見(1箇所:250m)
	○平成24年度	【調査】 宿毛市平田町、三辻山、大座礼山、竜王山、笹ヶ峰、梶ヶ森、三嶺、西又山、安田町中ノ川 【柵設置】 安芸市熊押山国有林(1箇所:50m)、工石山(1箇所:50m)、石立山(3箇所:300m)、三嶺(1箇所:150m)、堂ヶ森(1箇所:100m)
また、設置した防鹿柵の効果把握するため、生育範囲拡大などの回復状況確認のモニタリングを行い、植物個体群や防鹿柵の破損状況を把握のうえ適切な処置を行う。		
目的とねらい		
(事業の目的) 県内の山岳地帯において、この3～4年でニホンジカによる食害が非常に拡大しており、希少野生植物にも大きな被害が発生しているとの情報が、民間の自然保護団体などから寄せられている。 県では、ニホンジカによる希少野生植物への影響を十分に把握していないため、被害の実態を調査するとともに緊急にその対策を講じる必要がある。		
(意図すべき成果) 全県的な被害状況を把握し、現地調査等を行い急激な食害進行に早急に対応し、希少野生植物の保護に努める。		
対象(誰、何を対象とするのか)		
⑥	県内に分布する保全上重要な野生植物	



平成25年度 森林環境税活用事業評価シート② (当初・中間・実績)

担当課・係名	環境共生課
担当者	久保
内線	3214

4

指標の種類	指標名/算定式	H25目標値	H25中間値	H25実績値
I 活動指標 (アウトプット)	防護柵設置計画作成	10	11	11
	算定式 新規計画作成箇所数			
	防護柵設置(柵延長距離)	900	1,140	1,071
算定式 柵延長距離(m)				
II 成果指標 (アウトカム)	植生回復状況(各調査地点1㎡当りの植被率(%)の推移)	81%	77%	70%
	算定式 植被率(%)がアップした柵内方形区数÷柵内方形区調査(H24以前設置)数(%)			
	防護柵設置により保護される希少植物優先度点数	100	111	111
算定式 高知県レッドリスト・環境省レッドリスト・高知県固有評価のランク別配点による点数				
III 効率指標 (事業コスト)	防護柵1箇所設置に係る経費	705,300	577,609	577,609
	算定式 事業費(調査+設置)÷新規設置箇所数			
	設置済防護柵1箇所当たりモニタリング経費	220,045	219,545	225,320
算定式 事業費(モニタリング調査)÷モニタリング箇所(H24以前設置)数				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	希少野生植物をシカの食害から守る目的から、①県内の植物調査、②植物保護の防護柵設置、③設置後のモニタリング調査を専門家に委託した。(牧野植物園、森林組合等) ①調査→②設置→③モニタリングと、各段階の調査結果を踏まえて計画的に実施している。 柵設置は森林の奥地にある場合もあるが、設置には危険箇所を把握し滑落等に注意し施工した。
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	既設柵のモニタリング調査では、柵内外の植生を比較した場合、柵内の方形区が植被率、生長高さ、出現数とも増加している。希少植物の保護の観点から有効な事業結果であったと判断できる。
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	防護柵1箇所の経費は当初計画よりは安価となっている。モニタリング経費調査経費については、当初計画どおりである。

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	ニホンジカによる食害から、絶滅危惧種(レッドリスト)である希少植物を保護し、植生調査、防護柵設置、モニタリング調査を実施している。 少しずつではあるが絶滅危惧種の植生回復が見られることから種の保全や多様性の観点からも高く評価出来、今後も区域拡大、継続していくべき事業と考える。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

# 平成25年度 森林環境税活用事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	生涯学習課
担当者	川上 確也
内線	4629

5

①	事業名	・細目事業名：環境学習推進事業費 ・細々目事業名：環境学習推進事業 ・当該事業名：環境学習推進事業
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	森林環境教育

③	主な業務内容	・学習プログラム作成委託にかかる事務。 ・指導者養成研修委託にかかる事務
---	--------	---

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成23年度
	平成22年度に開催した「全国生涯学習フォーラム高知大会」における「環境フォーラム」での提言を受け、NPO等の団体や学校、社会教育施設が連携した自然体験活動や環境学習を推進する。そのために、森林率日本一の本県の自然を生かした自然体験活動や環境教育における次代を担う人材の育成を担う、指導者の研修や育成が重要である。 また、子どもたちを取り巻く大人も含め、森を大切に、自然と共生する社会の実現に向けて、県民の意識の向上を図ることが必要である。		

⑤	目的とねらい
	○「学習プログラム作成」 森・山とのつながりを意識した川や街（身近な場所）をテーマに、新学習指導要領の内容に即した自然環境を活用した各教科などの理解を促進する環境学習プログラムを作成する。
	○「指導者養成研修等委託業務」 森のようちえんをはじめとした幼少期の子どもを含め青少年向けの自然体験活動プログラムの指導ができる自然体験リーダー、自然体験活動プログラム企画・実施ができる自然体験インストラクターを養成する。 ・自然体験リーダー養成は、主に森のようちえん等の幼少期（概ね3歳から10歳）の子どもを対象とした体験活動指導力のある人材の養成を行う。 ・自然体験インストラクター養成は、幼少期から青少年等のより幅広い年齢層を対象とした体験活動指導力のある人材の養成を行う。
	○「情報共有・情報提供」 高知体験学習ガイドポータルサイトにおいて、自然体験・環境学習に関する情報（イベント、各種団体、場所等）を県民に広く提供するとともに、青少年の体験活動の意義や効果について啓発を図る。 あわせて、自然体験活動指導者に対し、安全管理や活動プログラム等に関する情報を提供することにより支援を行う。

⑥	対象（誰、何を対象とするのか）
	○「自然体験リーダー養成」：満18歳以上で、自然体験活動に興味関心を有する者。 ○「自然体験インストラクター養成」：自然体験活動の指導に関する研修の受講経験者、自然体験活動や環境学習の指導及び指導補助の経験者。

事業費の推移		H21 (決算額)	H22 (決算額)	H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)
総事業費 (千円)		0	0	6,219	1,522	1,788
② 財源内訳	森林環境税			1,953	1,522	1,788
	一般財源					
	その他			4,266		

⑦	事業内容（手段）
	○「学習プログラム作成」 単独随意契約により締結。 森・山とのつながりを意識した川や街（身近な場所）をテーマに、新学習指導要領の内容に即した自然環境を活用した各教科などの理解を促進する環境学習プログラムの作成業務を委託する。
	○「指導者養成研修等（自然体験リーダー）」 幼少期の子どもや青少年向けの自然体験活動プログラムの指導ができる自然体験活動リーダーを養成する研修事業の企画と実施業務を委託する。 研修期間は、効率的で、参加しやすい日程とし、研修時間の総計は22.5時間以上とする。
	○「指導者養成研修等（自然体験インストラクター）」 幼少期の子どもを含む青少年向けの自然体験活動プログラムの企画・実施ができる自然体験インストラクターを養成する研修事業の企画と実施業務を委託する。
	○「指導者養成研修等（自然体験リーダー）」と「指導者養成研修等（自然体験インストラクター）」の修了者に対し、OJT（オンザジョブトレーニング）として間伐体験を活用する。



平成25年度 森林環境税活用事業評価シート② (当初・中間・実績)

5

担当課・係名	生涯学習課
担当者	川上 確也
内線	4629

指標の種類	指標名/算定式	H25目標値	H25中間値	H25実績値
⑧ Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	学習プログラム作成委託	1	1	1
	算定式 1団体			
	自然体験活動指導者研修実施数	2	1	2
	算定式 2種類			
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	学習プログラム作成数	18	/	18
	算定式 12プログラム			
	自然体験活動指導者研修参加者数	48	22	41
	算定式 24人+24人			
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	1学習プログラム作成あたりのコスト	44,889	/	44,444
	算定式 $\frac{\text{学習プログラム作成委託費}}{\text{プログラム数}}$			
	自然体験活動指導者研修参加者1人あたりのコスト	14,083	/	13,414
	算定式 $\frac{\text{自然体験活動指導者研修事業費}}{\text{参加者数}}$			

評価の項目	評価の結果	説明
Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である	・「学習プログラム作成」は、県内の自然体験活動の実績がある指導者と教員により作成され、今後、教職員の研究団体による環境教育研究大会において授業での活用事例の発表等が期待される。 ・「指導者養成研修等委託業務」では、リーダーとインストラクターのレベルの異なる2段階の研修を設定したことでスキルや経験の異なる指導者を幅広く養成できた。
	<input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である	
	<input type="radio"/> C. あまり妥当でない	
	<input type="radio"/> D. 妥当ではない	
⑨ Ⅱ 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている	・「学習プログラム作成」は、学習指導要領との関連や評価規準の明記、またワークシート等も添付するなど、指導者の使いやすさを考慮した構成とすることができた。 ・「指導者養成研修等委託業務」では、参加者数が目標値にとどかなかったものの、事業実施後のアンケートでリーダー研修では回答者17人中14人が「満足」3名が「やや満足」と回答し、インストラクター研修では回答者15人中14名が「満足」1名が「やや満足」という肯定的な意見が多かった。
	<input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている	
	<input type="radio"/> C. あまり上がっていない	
	<input type="radio"/> D. 上がっていない	
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い	・「学習プログラム作成」、「指導者養成研修等委託業務」とともに、目標値より実績値を安価にすることができた。 また、県内の多様な環境学習や自然体験活動団体で構成するネットワーク組織に委託できたことで、プログラム活用及び養成した指導者の活動の場の提供等が期待できる。
	<input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い	
	<input type="radio"/> C. あまり高くない	
	<input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩ <input type="radio"/> A	○「学習プログラム作成」 環境学習プログラムは学習指導要領との関連や評価規準の明記、また、ワークシート等も添付するなど、指導者の使いやすさを考慮した作りで、環境学習に取り組みやすく、また、年間計画を立てる際も既存のカリキュラムに位置づけをしやすいため、授業等での活用が期待できる。 ○「指導者養成研修等委託業務」 参加者は予定より少なく41名であったが、アンケート結果から「自然をどう捉えていくのかの講義は大変参考になった。」「交流会での意見交換が楽しく、実りのあるものだった。」「ネイチャーゲームは自分の団体でも試してみた。」「などの肯定的な意見が聞かれ、参加者の満足度は高く、実践的で今後に生かせる内容で満足した研修ができた。
<input checked="" type="radio"/> B	
<input type="radio"/> C	
<input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続	
<input type="radio"/> 事業を拡大	
<input type="radio"/> 事業を縮小	
<input type="radio"/> 休廃止を検討	
<input type="radio"/> 改善のうえ継続	

# 平成25年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	高等学校課
担当者	宮川 真澄
内線	4851

6.1

①	事業名	・細目事業名：森林環境保全事業 ・細々目事業名：高校生森林環境理解事業 ・当該事業名：高校生森林環境理解事業
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	森林環境教育

③	主な業務内容	河川の水質検査や間伐材利用をとおして森林環境の保全を理解し支援できる人材の育成を図り、将来の森林の保全に具体的に組み込んでいく姿勢を育成する。
---	--------	---

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成20年度
	体験を重視した学習活動により、森林の重要性・環境問題について生徒自ら考えることが出来るようになり、学習内容を発表することで社会性の伸長を目指すキャリア教育にもつながっている。課題としては、活動が多岐に渡るため、時間的余裕が少ない。教科教育との兼ね合いも含めより効果的な環境教育を推進していく必要がある。		
⑤	目的とねらい	四万十川流域の貴重な動植物の生態の学習及び水質調査、四万十川源流域で独特の森林植生の学習や、森林の管理が下層植生にどのような影響を与えるかの調査、鏡川と浦戸湾を題材とし、森林と川と海のつながりを考える。鏡川の水生生物の調査、浦戸湾の生態系に関する調査、牧野植物園でのフィールドワークをとおして森・川・海と結ぶ生態系の成り立ちについて学ぶ。 学校演習林などから搬出した間伐材を利用し、木材加工製品を製作し地域の保育園等に配布し将来の木材需要の向上を図る。	
	⑥	対象（誰、何を対象とするのか）	県内河川及び山（生徒）

事業費の推移		H21(決算額)	H22(決算額)	H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)	
②	総事業費（千円）	904	1,008	985	1,050	884	
	財源内訳	森林環境税	904	1,008	985	1,050	884
		一般財源					
	その他						

⑦	事業内容（手段）	学校での授業や現地でのフィールドワーク等 学校演習林などから搬出した間伐材を利用し、木材加工製品の製作を行い地域への配布 小学生・保護者対象の木工教室の開催 高校生が講師となり中学校への出前授業

# 平成25年度 森林環境税活用事業評価シート② (当初・中間・実績)

担当課・係名	高等学校課
担当者	宮川 真澄
内線	4851

6\_1

指標の種類	指標名/算定式	H25目標値	H25中間値	H25実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	取り組み回数	50	28	30
	算定式			
	算定式			
	算定式			
II 成果指標 (アウトカム)	取り組み回数	50	28	30
	算定式			
	算定式			
	算定式			
III 効率指標 (事業コスト)	取り組み1回当たりに要する経費	22,020	12,734	29,467
	算定式			
	算定式			
	算定式			

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	森林環境理解に関する事業は数種類の取り組みがあるが、目標数値には届かなかったがほぼ予定通り実施することができた。
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	各事業によりその内容が大きく異なり、高校生が直接体験する事業や高校生が作成した物を配付したり、木材の活用方法を高校生が指導するなど、参加者数の把握が難しいため実施事業回数で成果をみることにした。事業報告などから参加者の状況を見ても、目標値には届かなかったが、その成果は上がっていると考え。
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	参加人数を正確に把握することは難しいため、事業数で算出しているが、事業によっては50人を超える参加もあり、全体としてはその実施効果が高いと判断する。

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩ <input checked="" type="radio"/> A	森林環境について、高校生だけでなく保育園児や児童生徒、保護者とともに幅広く学習する機会を持って、高知県の森林環境を考え、活動することのできる人材を育成する大きな場となった。 また、身近な環境の調査、観察をすることにより高知県の自然環境を深く理解し、すばらしい高知の環境を広める良き理解者の育成につながった。 このようなことから、本事業の成果は十分上がっていると考え。
<input type="radio"/> B	
<input type="radio"/> C	
<input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

# 平成25年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	高等学校課
担当者	宮川 真澄
内線	4851

6\_2

①	事業名	<ul style="list-style-type: none"> <li>細目事業名：森林環境保全事業</li> <li>細々目事業名：高校生後継者育成事業</li> <li>当該事業名：高校生後継者育成事業</li> </ul>
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	森林環境教育

事業費の推移		H21 (決算額)	H22 (決算額)	H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)
総事業費 (千円)		367	164	118	191	182
② 財源内訳	森林環境税	367	164	118	191	182
	一般財源					
	その他					

③	主な業務内容	林業関係学科に学ぶ生徒を対象に、林業に関する資格取得を推進し、将来の林業を担う人材の育成を図る。
---	--------	--

⑦	事業内容 (手段)	車両系建設機械運転技能講習の受講 関係法令学科試験

④	現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成20年度
	林業の現場で幅広く使用される車両系建設機械の種類や構造、操作について理解を深め、始業前点検から作業終了後の保管まで安全かつ確実に実行できる技能を習得させる。課題としては講習により、安全な機械の運転方法を学ぶことが出来たが、限られた時間の中では実践的な運転技能の習得までは難しい。		
⑤	目的とねらい	将来の林業従事予定者を育て、資格取得後の技術の向上、継続的な環境教育・キャリア教育に結びつける。	
⑥	対象 (誰、何を対象とするのか)		
	資格 (生徒)		

平成25年度 森林環境税活用事業評価シート② (当初・中間・実績)

担当課・係名	高等学校課
担当者	宮川 真澄
内線	4851

6\_2

指標の種類	指標名/算定式	H25目標値	H25中間値	H25実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	取り組み回数	1	1	2
	算定式			
	算定式			
	算定式			
II 成果指標 (アウトカム)	参加人数	20	23	31
	算定式			
	算定式			
	算定式			
III 効率指標 (事業コスト)	参加者一人当たりにかかる経費	11,400	9,026	5,850
	算定式 事業費÷参加人数			
	算定式			
	算定式			

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	森林関係学科における実施であり、関係設置校1校1回の実施であることから、妥当と考える。
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	資格取得の成果としては十分な結果が出ている。
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	林業関係への従事者育成は大変重要であり、後継者育成の観点からも効率性は高いといえる。

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
	<p>参加人数は年度により変動するが、本年度も31名の参加があり、可搬式林業機械の資格取得に熱心に取り組んだ。参加者全員が資格を取得し、将来の林業従事者としての資質を高めることができた。目標値以上に資格取得者があり、後継者育成の観点からいえば高く評価ができる。</p>

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続



# 平成25年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

7

①	事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：山の学習支援事業費 ・当該事業名：山の学習支援事業費補助金
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	森林環境教育

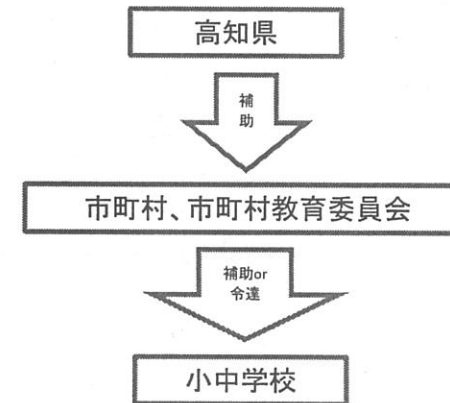
事業費の推移		H21 (決算額)	H22 (決算額)	H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)
総事業費 (千円)		6,678	8,584	9,260	9,064	9,902
② 財源内訳	森林環境税	6,678	8,584	9,260	9,064	9,902
	一般財源					
	その他					

③	主な業務内容	総合的な学習の時間において、年間を通して森林環境学習を実施する小中学校等へ、学校独自の取り組みを進めるために補助する。
---	--------	---

⑦ 事業内容 (手段)	
総合的な学習の時間において年間を通して森林環境学習を実施する小中学校等へ、学校独自の取り組みを進めるために補助する。	

④	現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成16年度
	平成7年に策定された木の文化県構想は「木と人との共生」を基本理念として、人と木より深い関わりと多様なあり方を追求し、木に対する色々な知識を蓄積しながら、木の循環に配慮した行動につなげていくことを狙いとしている。この中の3つの視点の一つである「木を育てる」視点から、森林率全国一を誇る本県において、昔から培われてきた「木の文化」を身につけ活動できる人材を継続的に養成する必要がある。また、木や森に関わる人々の技術や伝統を次代に伝えていくことによって、木の文化県構想の定着を図っていく必要がある。		
⑤	目的とねらい	森林県である本県の子ども達に「木の文化」が身に付くような学習への支援を行うことによって、子ども達が森林への理解や関心を深め広げ、将来に渡って大切な山や森を守っていく心を育むことを目的とする。	
	対象 (誰、何を対象とするのか)	県民 (小中学生等)	

## 【補助の仕組み】



平成25年度 森林環境税活用事業評価シート② (当初・中間・実績)

7

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

指標の種類	指標名/算定式	H25目標値	H25中間値	H25実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	事業回数	46	47	47
	算定式			
	算定式			
II 成果指標 (アウトカム)	県民参加人数	3,948	4,188	4,188
	算定式			
	算定式			
III 効率指標 (事業コスト)	参加した県民一人当たりの経費	2,508	2,861	2,364
	算定式 事業費÷県民参加人数			

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	実施主体は県内の小中学校であり、妥当であった。
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	総合的な学習の時間を利用して、森林・林業体験、木工体験など「木の文化」が身に付くような取り組みが行われており、成果は上がったといえる。 H24年度 46校→H25年度 47校 (うち、新規に当事業に取り組んだ学校は7校)
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	当初目標よりも、一人当たりのコストは若干下がった。

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
	平成25年度は47校が事業を活用しており、多くの小中学生が山や森への理解や関わりを深めることができた。しかしながら、当事業を活用している市町村が固定化(16市町村)してきていることもあり、掘り起こしが必要であると考えている。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続



# 平成25年度 森林環境税活用事業事業評価シート① (当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

8\_1

① 事業名	<ul style="list-style-type: none"> <li>細目事業名：県民参加の森づくり推進費</li> <li>細々目事業名：森づくりへの理解と参加を促す広報事業費</li> <li>当該事業名：森林環境税パンフレット等作成委託料</li> </ul>
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移		H21 (決算額)	H22 (決算額)	H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)
総事業費 (千円)		300	298	281	254	330
② 財源内訳	森林環境税	300	298	281	254	330
	一般財源					
	その他					

③ 主な業務内容	森林環境税に関するパンフレット等の作成
----------	---------------------


## 事業内容 (手段)

ポケットフォルダ (小学校教諭対象) とチラシ (県民対象) のデザイン及び印刷を委託した。  
 ポケットフォルダは、平成26年5月に配布する予定。チラシは、平成26年4月から公共施設、量販店、銀行などで配布を開始している。

④ 現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成15年度
平成23年度に行った県民世論調査において、森林環境税の課税期間延長に対する賛成意見が76.5%であったが、前回県民アンケートに比べると7ポイント低下しており、活用内容等も含めて森林環境税の認知度が低下しているものと推測される。 このため、森林環境税の制度や使いみちを県民に一層理解してもらい、同税の趣旨を浸透させていくためには、種々の広報媒体を活用して粘り強くPRしていく必要がある。		


⑤ 目的とねらい	幅広い県民を対象に、森林環境税の目的や使いみちなどや森林の大切さなどをPRすることで、県民の同税への理解を促し、県民の「県民参加の森づくり」への自発的な参加のきっかけとなるツールとして活用することを目的とする。
----------	---

⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか)	県民
--------------------	----



⑦

ポケットフォルダ中



チラシ裏面

平成25年度 森林環境税活用事業評価シート② (当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

8\_1

指標の種類	指標名/算定式	H25目標値	H25中間値	H25実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	パンフレット等の発行回数	1	-	1
	算定式 1回			
	算定式			
	算定式			
II 成果指標 (アウトカム)	パンフレット等の発行部数	20,000	-	13,500
	算定式 パanf: 10,000部 チラシ: 10,000部			
	算定式			
	算定式			
III 効率指標 (事業コスト)	広報誌一部当たりの経費(円)	17	-	24
	算定式 事業費÷発行部数			
	算定式			
	算定式			

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	ポケットフォルダの事業受託者とチラシの事業受託者は2社とも広報実績のある民間の会社であり、誠実に業務を履行していただいた。
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	「mamori」のアンケート結果等から、5年社会科の森林を学ぶ際、高知県の情報が不足していること、森林環境教育についての問合せ先が分かっていないことが判明し、事業効果を考え、ポケットフォルダを小学校教諭に配布することとした。 チラシは、平成26年度の森林環境税の活用を紹介する内容とした。 両方とも、デザイン、仕上がりとも満足の内容であった。
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	パンフレットから、森林環境教育の資料を保管できるポケットフォルダに内容を変更したため、若干コスト高になった。

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩ <input checked="" type="radio"/> A	平成25年度は広報効果の向上を図るため、従来の県民を対象とした広報に加え、学校での森林環境教育の推進役を担う小学校教諭を対象とした広報を行った。 県民向けは、多くの方に配布でき、手軽に手に取ってもらえるチラシとし、森林環境税の活用方法を掲載した。 小学校教諭向けには、先生方が必要な森林環境教育の資料を保管できるポケットフォルダとし、高知県の森林・林業の現状や森林環境教育の問合せ先などを掲載した。 対象を明確にすることで、効果の高い広報ができたと考えている。
<input type="radio"/> B	
<input type="radio"/> C	
<input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

# 平成25年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

8\_2

①	事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森づくりへの理解と参加を促す広報事業費 ・当該事業名：森林環境税情報誌作成等実施委託料
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移		H21(決算額)	H22(決算額)	H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)
総事業費(千円)		4,710	4,732	6,665	6,665	6,366
② 財源内訳	森林環境税	4,710	4,732	6,665	6,665	6,366
	一般財源					
	その他					

③	主な業務内容	森林環境税やこうち山の日にに関する取り組みなどを掲載した情報誌等の作成を行う。
---	--------	---

⑦	事業内容(手段)	<p>○プロポーザル方式により業者を選定後、委託契約を締結。県民に伝えるべき森林環境税の取り組みや森や山に関する身近な情報を的確に提供するため、編集会議を開催して誌面づくりを行い、県関係機関はもとより、県内各所に配布するなど積極的な発信を行う。県内外の道の駅や県外事務所などへ夏(6月)秋(10月)各105,000部 計21万部を発行し、県内の量販店、喫茶店、レストラン、コンビニなど約2,500箇所と全小中学校児童生徒に配布する。あわせて、県HPで誌面と同内容を掲載している。</p> <p>【平成24年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発行部数 年2回発行(6月、10月) 各105,000部 計21万部発行</li> <li>配布先 県内の量販店、コンビニ、四国の道の駅等、約2,500箇所及び県内全小中学校児童生徒約6万人</li> </ul>
---	----------	---

④	現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成19年度
	森林環境税を活用して、県民参加の森づくりを推進して来ているが、若い年齢層や子育て年齢層、児童・生徒にとっては、森や山への理解や関心があまり高くない状況にある。		

⑤	目的とねらい	(本事業の目的) 森や山に関する情報提供と森林環境税を活用した事業の取り組みなどを、県民に分かりやすく伝えることとによって、森林の大切さなどの理解と関心を深めてもらうことを目的とする。
		(意図すべき成果) 全国一の森林県である本県の84%を占める山林の公益的機能の大切さが、県民各層に理解されるとともに、森林環境保全のために役立つ森林環境税の重要性を幅広い県民に認識していただくことを目指す。

⑥	対象(誰、何を対象とするのか)	県民(20代~40代の女性、県内小中学校の全児童・生徒及びその親)
---	-----------------	-----------------------------------

平成25年度 森林環境税活用事業評価シート② (当初・中間・実績)

8\_2

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

指標の種類	指標名/算定式	H25目標値	H25中間値	H25実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	広報誌総発行部数	210,000	210,000	210,000
	算定式 105,000部×2回			
	広報誌発行回数	2	2	2
	算定式 6月、10月			
II 成果指標 (アウトカム)	広報誌読者数	105,000	105,000	105,000
	算定式 県内全小中学校児童・生徒及び県内観光施設等			
	算定式			
	算定式			
III 効率指標 (事業コスト)	発行一回当たりの経費	3,183,000	3,182,547	3,182,547
	算定式 総事業費÷年間総発行回数			
	広報誌一部当たりの経費	30.3	30.3	30.3
	算定式 総事業費÷年間総発行部数			

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	事業受託者は民間の広報誌・HP等の作成会社がプロポーザル方式で選定されており、業務の遂行能力も満足のいくものであった。
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	編集委員や県の要望の対して、十分な内容で応えることができ、デザイン・内容等、発注者の意図する誌面を高いレベルで作成することができた。 また、14号の読書アンケートの際、県から回答を呼びかけたため、13号の10倍以上の3,915通の回答を得ることができ、今後の取組みに役立つ結果を得ることができた。
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	作成費用は当初目標どおりであり、コスト面は妥当である。

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	7年間同業者であるため、事業を円滑に進めることができました。 全小中学生に配布することで、若い年齢層や子育て年齢層、児童・生徒に森や山への理解や関心を向上に寄与しており、また、親子で本誌を活用して森林環境学習を行うことができていると考えている。 アンケートに多くの回答をいただいたことで、mamoriの内容充実につなげることができ、また、森や山への理解や関心を深めてもらうための貴重な意見を集約することができた。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	



# 平成25年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

9\_1

① 事業名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細目事業名：県民参加の森づくり推進費</li> <li>・細々目事業名：こうち山の日推進事業費</li> <li>・当該事業名：こうち山の日県民参加支援事業委託料</li> </ul>
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移		H21 (決算額)	H22 (決算額)	H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)
② 総事業費 (千円)		1,718	1,173	1,662	2,246	1,625
財源内訳	森林環境税	1,718	1,173	1,662	2,246	1,625
	一般財源	[※上記金額には、作業安全研修委託料を含む]				
	その他					

③ 主な業務内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動の開催</li> <li>2) 取り組みの広報</li> <li>3) 森林保全ボランティア作業安全研修の運営</li> </ol>
----------	---

⑦ 事業内容 (手段)

- 1) 幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動の開催
  - ① ネットワーク団体の活動計画を把握し、HPに計画内容を広報
  - ② 活動実施
- 2) 取り組みの広報  
活動成果をHPに公開
- 3) 森林保全ボランティア作業安全研修の運営

```

graph TD
    A[県] -- 委託 --> B[こうち山の日ボランティアネットワーク]
    B --> C[ボランティア]
    B --> D[取り組み広報]
    B --> E[安全研修]
    E --- F["「森林保全ボランティア作業安全研修委託料業務」(H17~24)を統合  
→ 事業メニューの簡素化、事務の効率化を図ります  
New!"]
    E -- 再委託 --> G["(財)山村林業振興基金"]
    
```

④ 現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成19年度
「こうち山の日」の活動をはじめとする「県民参加の森づくり」を推進するため、県内の森林保全ボランティア団体の統轄機関である「こうち山の日ボランティアネットワーク」を事業実施団体に定め、会員団体が県内全域で森林保全活動を積極的に展開している。		

⑤ 目的とねらい	幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動などの取り組みを通じて、幅広く県民に森林への理解と関心を深めてもらうことを目的とする。
----------	--

⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか)	県民
--------------------	----

平成25年度 森林環境税活用事業評価シート② (当初・中間・実績)

9\_1

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

指標の種類	指標名/算定式	H25目標値	H25中間値	H25実績値
⑧ Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	森林保全に関する活動回数	30	24	37
	算定式			
	作業安全研修受講者数	2	2	2
	算定式			
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	県民参加人数	500	129	309
	算定式			
	作業安全研修受講者数	30	23 (初級9 中級14)	23
	算定式			
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	当事業に参加した県民一人当たり に要する経費(円)	3,066	/	4,895
	算定式 事業費÷県民参加人数			
	算定式			
	算定式			

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	当事業の実施主体は県内の森林保全のボランティア団体の統轄機関である「こうち山の日ボランティアネットワーク」で、事業を実施する団体として適している。
Ⅱ 成果 (意図した成果は上 がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input checked="" type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	森林保全ボランティア活動19回、広報活動17回、四国山の日(徳島県開催)で計37回。参加人数が当初計画では、森林保全ボランティア活動470人、四国山の日で30人と見込んでいたが、それぞれ301人、8人と目標には届かなかった。安全研修は、初級は目標に届かず、中級は目標通りであった。
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input checked="" type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	参加県民一人当たりの事業コストは、計画よりも高かった。

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩ <input type="radio"/> A	当事業を活用している団体は6団体。当事業を活用せず、別事業を活用して同様な活動を行っている団体もある。 ボランティアを行いたいニーズがある一方、当事業を活用していても、広報が十分でなく、一般参加者がほとんどない活動がある。 ボランティアを行いたい人のニーズにあった活動に近づけるよう、当事業を活用している団体と協議を行い、県民参加者数を向上させていく必要がある。
<input type="radio"/> B	
<input checked="" type="radio"/> C	
<input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

# 平成25年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

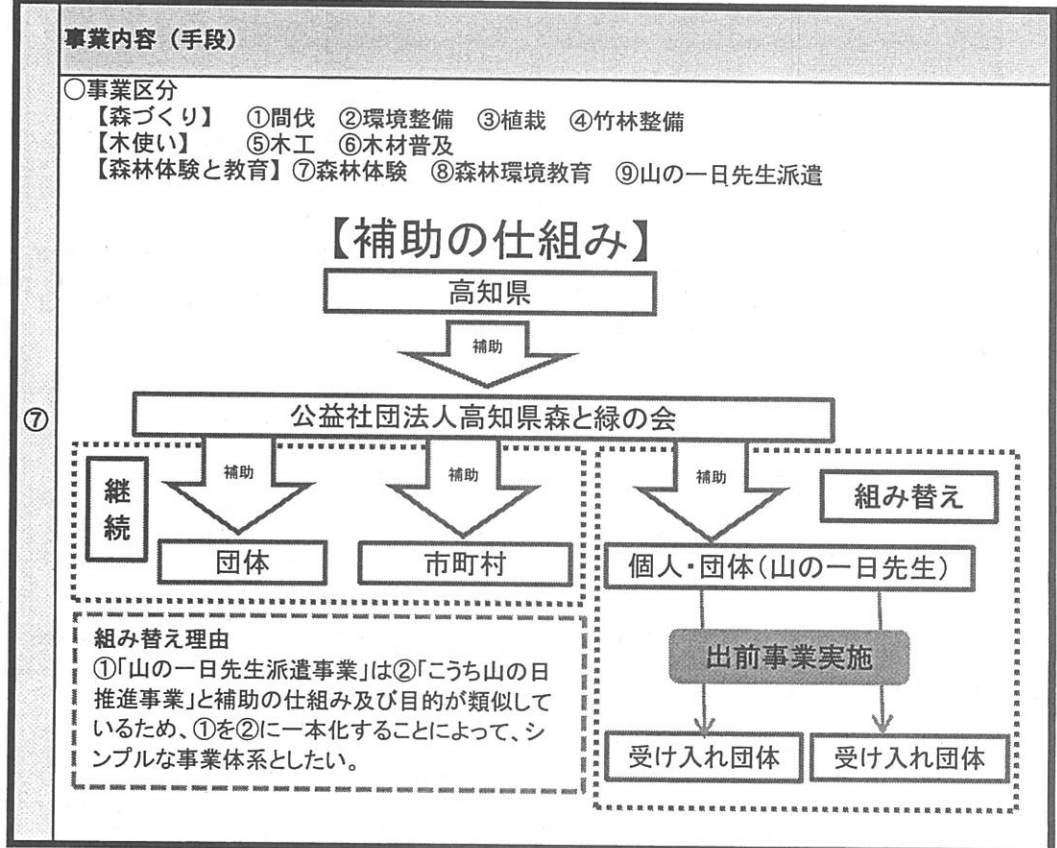
担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

9\_2

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：こうち山の日推進事業費 ・当該事業名：こうち山の日推進事業費補助金
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移		H21 (決算額)	H22 (決算額)	H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)
総事業費 (千円)		11,402	14,014	12,687	13,699	11,306
② 財源内訳	森林環境税	11,402	14,014	12,687	13,699	11,306
	一般財源	[※上記金額には、山の一日先生派遣事業を含む]				
	その他					

③ 主な業務内容	「こうち山の日」に関する普及啓発事業及び森の案内人の養成に取り組む団体等に対して補助する。
----------	---



④	現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成15年度
	人と木の共生を基本理念とした「木の文化県構想」の一環として、県民一人ひとりに森林や山を守る活動の重要性に対する理解と関心を深めてもらうことを制定趣旨として「こうち山の日」が制定された。しかし「こうち山の日」の県民に対する認知度は必ずしも高くないため、今後も、継続的な普及啓発を行う必要がある。		
⑤	目的とねらい	「こうち山の日」の制定趣旨に基づいた普及啓発に資する取組を総合的に支援することによって、豊かな森林の恵みに感謝し、森林や山を守ることの重要性に対する理解と関心を深め、県民一人ひとりが森林を守る活動に参加し、また自ら行動することによって山を守り育て次代へと引き継いでいくことを目的とする。	
⑥	対象 (誰、何を対象とするのか)	県民	



平成25年度 森林環境税活用事業評価シート② (当初・中間・実績)

9\_2

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

指標の種類	指標名/算定式	H25目標値	H25中間値	H25実績値
⑧ Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	事業回数	100	60	157
	算定式			
	算定式			
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	県民参加人数	7,000	4,000	10,118
	算定式			
	算定式			
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	参加した県民一人当たりの経費	1,615	/	1,117
	算定式 事業費÷県民参加人数			

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	実施主体は、「こうち山の日」の制定趣旨に賛同し、積極的に森や山への理解と関心を深める取り組みを行える団体であった。
Ⅱ 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	当初目標を上回る実績であり、多くの県民が自ら森林への理解や関心を深め、森林を守る活動に参加することによって山を守り育て次代へと引き継いでいくことの重要性について学ぶことができた。 旧 山の日推進事業分 27回4,054人 旧 山の日先生派遣分 130回6,064人
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	当初目標を上回る実績であったため、県民一人当たりにかかる経費を抑えることができた。

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	平成25年度の参加者は昨年度より約2,400人(山の日推進事業約1,300人 山の日先生派遣約1,100人)減少したが、一人当たりのコストは、昨年度とほぼ同額(H24 1,100円)であった。 補助事業の受託者である高知県森と緑の会は、事業主体を集めた事業発表会・意見交換会も実施しており、今後、より多様な事業が展開できるよう工夫をこらしている。 当補助事業のイベントが新聞等に掲載されることも多く、県民の方に森林への理解や関心を高める広報効果も十分あったと思われる。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

# 平成25年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

10

①	事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森林保全ボランティア活動推進事業費 ・当該事業名：森林保全ボランティア活動推進事業費補助金
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	県民の主体的な活動

③	主な業務内容	1) 間伐に必要な機械器具等の整備に対する定額補助 2) 木材利用に必要な機械器具の整備に対する定額補助 3) 間伐等森林整備の実施に対して交付する地域通貨の精算 4) 間伐等森林整備の実施に対して必要な機械経費等の補助
---	--------	---

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成16年度
	木材価格の下落や中山間地域の高齢化などが原因で増加する荒廃森林を解消するために、森林組合等の事業体のみならず、県民が「緑のサポーター」となって積極的に森林整備に参加することが望まれた（平成12年度当時）。 現在（平成24年度）は、1,000人を超える県民がが各地で健全な森づくりのため間伐等の森林整備を行っており、森林保全ボランティア活動にかかる経費面のサポートを行う必要がある。		

⑤	目的とねらい（成果）	森林整備を実践する森林保全ボランティア団体の設立や間伐活動を支援することによって「県民参加の森づくり」を推進することを目的とする。
---	------------	---

⑥	対象（誰、何を対象とするのか）	県民
---	-----------------	----

事業費の推移		H21 (決算額)	H22 (決算額)	H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)
総事業費（千円）		1,744	3,759	2,072	1,397	1,212
②	財源内訳	1,744	3,759	2,072	1,397	1,212
	森林環境税					
	一般財源					
	その他					

⑦ 事業内容（手段）

- 1) 間伐に必要な機械器具等の整備に対する定額補助  
新規に設立された森林保全ボランティア団体に対して、チェーンソーや安全防具などを上限25万円で補助
- 2) 木材利用に必要な機械器具の整備に対する定額補助  
「こうち山の日ボランティアネットワーク」に対して、林内作業車などの木材利用機械を補助
- 3) 間伐等森林整備の実施に対して交付する地域通貨の精算  
森林保全ボランティアが行う間伐などの森林保全活動に対する機械経費等を地域通貨券で補助
- 4) 間伐等森林整備の実施に対して必要な機械経費等の補助

地域通貨の流れ

高知県 → 市町村 → 地域通貨発行 → 地域通貨交換 → 地域通貨利用 → 地域通貨決済 → 商店 → 地域通貨交換 → 地域通貨発行 → 市町村 → 高知県

森林保全ボランティア団体

平成25年度 森林環境税活用事業評価シート② (当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

10

指標の種類	指標名/算定式	H25目標値	H25中間値	H25実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	機械器具支援団体数	2	1	2
	算定式			
	地域通貨利用団体数	4	4	
	算定式			
II 成果指標 (アウトカム)	機械器具導入セット数	2	1	2
	算定式			
	地域通貨等利用面積 (ha)	25	12.62	11.57
	算定式			
III 効率指標 (事業コスト)	機械器具1セット当たりの経費	250,000	248,325	248,903
	算定式 事業費÷セット数			
	地域通貨利用面積1ha当たりの経費	66,000	66,000	61,653
	算定式 事業費÷面積			

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	実施主体は、県に登録された森林保全ボランティアや市町村など。事業メニューによって、補助の形式を変え(機械→直接、間伐→間接)、円滑に事業が執行できるよう工夫している。
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input checked="" type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	機械器具の導入は、目標と同じ2セット。間伐は、目標値の約半分あった。
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	事業コストは、概ね計画どおりであった。

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩ <input type="radio"/> A	森林保全ボランティア団体は2団体設立された。来年度以降も、森林保全ボランティアの育成に努めていく。 当事業も含め、森林保全ボランティア活動は、森林の重要性を作業を通じて実感できる重要な機会と考えている。  なお、当事業は、国の森林・山村多面的機能発揮対策交付金と重複する内容であるため、平成28年度まで休止することとした。
<input checked="" type="radio"/> B	
<input type="radio"/> C	
<input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

# 平成25年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

11

① 事業名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細目事業名：県民参加の森づくり推進費</li> <li>・細々目事業名：運営委員会等開催費</li> <li>・当該事業名：事務費</li> </ul>
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移		H21 (決算額)	H22 (決算額)	H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)
総事業費 (千円)		764	905	852	692	835
② 財源内訳	森林環境税	764	905	852	692	835
	一般財源					
	その他					

③ 主な業務内容	森林環境保全基金の運営を適正に行うため、基金運営委員会の開催等を行う。
----------	-------------------------------------

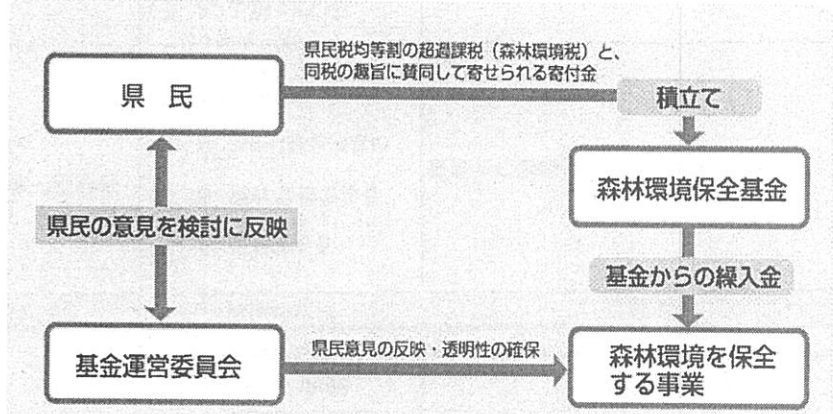
事業内容 (手段)  
森林環境保全基金の運営を適正に行うため、基金運営委員会の開催等を行う。

④ 現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成18年度
---------------------------	--------	--------

- 【主な取り組み】
- ・基金運営委員会の開催 年6回
  - ・先進地視察 年1回

⑤ 目的とねらい  
森林環境保全基金の運営を適正に行う。

森林環境税による事業の仕組みについて



⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか)  
県民

平成25年度 森林環境税活用事業評価シート② (当初・中間・実績)

11

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

指標の種類	指標名/算定式	H25目標値	H25中間値	H25実績値
⑧ Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	委員会等開催回数	7	2	4
	算定式			
	算定式			
	算定式			
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	延べ委員出席者数	70	17	34
	算定式			
	算定式			
	算定式			
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	委員会一日一人当たりに要する経費	12,800	8,756	9,142
	算定式 報酬+旅費			
	算定式			
	算定式			

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	委員会の審議は、適切に行われた。
Ⅱ 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	全委員参加を目標としていたが、達成は困難であった。
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	経費は当初目標を下回った。

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	各委員の多忙なスケジュールの中、当委員会に毎回全員出席いただくのは困難であったが、森林環境税活用事業の審議等について貴重なご意見をいただくなど、毎回、内容の濃い充実した委員会であった。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	



# 平成25年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材利用推進課
担当者	大家 礼子
内線	4593

12

①	事業名	・細目事業名：県産材需要拡大対策事業費 ・細々目事業名：木の香るまちづくり推進事業費 ・当該事業名：木の香るまちづくり推進事業 ：その他事業費
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	木材利用

事業費の推移		H21(決算額)	H22(決算額)	H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)
総事業費(千円)		21,423	32,533	43,735	46,608	42,871
② 財源内訳	森林環境税	21,423	32,533	43,735	46,608	42,871
	一般財源					
	その他					

③ 主な業務内容	県内の公共的施設や学校施設、屋外景観施設等において県産材を活用した施設の整備や木製品の導入などに対して支援
----------	---

事業内容(手段)	
① 公共的空間整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助内容：木質内外装整備等</li> <li>補助先：市町村、社会福祉法人、医療法人等</li> <li>補助率：1/2以内(限度額 5,000千円)</li> </ul>
② 学校関連環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助内容：学校等に木製の机、椅子、遊具などを導入</li> <li>補助先：市町村、社会福祉法人、学校法人等</li> <li>補助率：1/2(補助金額25千円以上、限度額5,000千円)</li> </ul>
③ 屋外景観施設等整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助内容：木製のバス待合所や休憩所、案内看板等の屋外景観施設整備</li> <li>補助先：市町村、団体等</li> <li>補助率：1/2(補助金額50千円以上、限度額5,000千円)</li> </ul>
⑦	

現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成20年度
④		<p>長引く木材価格の低迷等により、間伐などの手入れがされず荒廃森林が増加。木を使うことにより持続可能な山の暮らしを支えるとともに公益的機能の発揮される森づくりの支援が必要</p> <p>森林環境税2期目の平成20年度から次世代を担う子ども達への木とふれ合う機会の提供及び不特定多数の方が訪れる公共的施設の内外装整備による木の良さの普及を図り需要拡大につなげるため、小中学校等への木製の机、椅子等の導入、公共的施設の内外装整備に対して支援</p> <p>平成21年度からは、バス待合所整備等にも対象を拡大し、平成22年度に「木の香るまちづくり支援事業」に一本化</p> <p>平成25年度は、公共的施設11箇所、学校関連施設38箇所、屋外景観施設5箇所に支援を行った。</p>
目的とねらい		
<p>(目的)</p> <p>木の良さをPRして需要拡大を図り、持続可能な山の暮らしを支える森づくりの支援につなげる。</p> <p>(成果)</p> <p>⑤ 木材の地産地消の意識が定着し、県産材があらゆるところで積極的に使用されている。</p>		
⑥ 対象(誰、何を対象とするのか)		
次世代を担う子ども達及び一般県民等		

平成25年度 森林環境税活用事業評価シート② (当初・中間・実績)

12

担当課・係名	木材利用推進課
担当者	大家 礼子
内線	4593

指標の種類	指標名/算定式	H25目標値	H25中間値	H25実績値
⑧ Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	補助金投入額	50,144千円	38,905千円	42,871千円
	算定式			
	算定式			
	算定式			
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	施設利用者数	1,000,000人	1,928,787人	2,916,649人
	算定式			
	整備箇所数	49箇所	48箇所	54箇所
	算定式			
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	1人当たりPRコスト	50円	20円	15円
	算定式			
	1箇所当たり整備コスト	1,023,346円	810,521円	793,907円
	算定式			

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	不特定多数の県民が利用する施設や子ども達の利用が多い保育園や学校などを対象としているため、PR効果が高い。
Ⅱ 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	民間施設への木材利用が広がっている。
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	今年度は、特に利用者の多い空港、スーパーマーケット、宿泊施設からの申請があったため、利用者数が上がり、一人当たりPR(整備)コストも目標値より大幅に低下する結果となった。

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	公共的施設の木質化について、医療施設、空港、スーパーマーケット、宿泊施設からも申請があり、民間施設への木材利用が広がってきている。 学校関連施設への木製品の導入についてはこれまで当事業を利用したことのない施設などからも申請があり、木材利用が広がっている。 観光関連施設については、前年度に比べると増加している。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪ <input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	